

「敬老パス」が届いた

新 年が明けてすぐ、我が家に区役所から「敬老パス」の申請書が届いた。この敬老パスは、一定額を支払うと横浜市営・民営バス12路線、市営地下鉄・金沢シーサイドラインが何度でも乗り降り自由なフリーパス。4月になれば70歳になることは十分わかっていたが、申請書を手にかんともしがたい思いにつつまれた。

日々体力の衰えは自覚していたが、体とは裏腹に自分自身はまだまだ若い気でいたようだ。なにせ正式名称は「敬老特別乗車証(通称：敬老パス)」、敬老というところが気に障る。加えて、バスに乗車する際は、敬老パス利用者は料金箱の下方にある「専用読取機」を利用する。ICカードをかざすと読取機が緑色に光り、「敬老利用者ですよ～」と知らせる(私にはそう見えるのだ)。加えて、パスを利用する人たちは、例外なく「お世話になります」「ありがとうございます」と運転手にあいさつをしている。

この制度は、高齢者の健康増進を図ることを目的に1970年代以降、主に交通網の整備された都市部で導入されたもの。高齢化が進む中、自治体の負担額が増加し、改定、廃止等の動きがみられるという。

制度のある横浜は恵まれているのだが、何度も言うが、名称がいただけない。全国では、「敬老優待乗車証」「シルバーパス」「おでかけパスポート」「高齢者外出支援」……、と様々。

長年にわたり、税金を滞滞なく支払ってきた。70歳を機に、堂々と優遇をうけることに異論はない。しかし、文字は敬老だが、心のこもっていない年寄扱いという感じがいなめない。「ご苦労様パス」なんかはどうだろうか。これまでご苦労様でした、の気持ちが伝わる制度であってほしいものだ。

文句はこれぐらいにして、せっかく頂いた敬老パスを有効に使って、今春はバス旅をしてみたいと思う。

